

1. 活動期間

2024年10月20日(日)8時30分～17時00分

2. 活動場所

大谷小中学校避難所

馬縹地区・休養センター(避難所)

3. 令和6年奥能登豪雨による被害等の状況

(第24報 令和6年10月18日(金)14時00分現在:石川県庁,危機管理室)

人的被害:死者14名(珠洲市3名) 安否不明者1名 重症者2名 軽症者45名

全壊19棟 床上浸水318棟 床下浸水1055棟

避難所開設:珠洲市10箇所 避難者数45人

4. 大谷地区避難者状況

・大谷地区在宅に住まれている方133世帯202名

・大谷小中学校避難所避難者数

10月20日28名

5. 支援活動の実際

【避難所】

#)被災者支援#*

・避難者日中在住の方の健康状態ヒアリング

・バイタルサイン測定、健康調査・相談の実施

咳嗽症状のある方が散見されていた。発熱者はおらず、市販薬を内服し様子を見られていると
のことであった。その他、血压測定時は避難所内の温度は16であったためか、着衣を着込ん
で測定されるため、測定時のみ一時的に上着を脱ぐようお伝えした。

#)環境整備#*

・感冒症状の方が散見されることを受け、避難所運営本部とのミーティングで、管内マスク着用
を促す案内を実施することとなった。避難所利用者の方にも説明をし、理解を求めた。外部か
らの来訪者にも随時マスク着用を促すため、玄関出入口にも案内のチラシを貼った。また、豪
雨後の粉塵などにより、玄関など汚れるため随時清掃を実施した。朝は避難時利用者の方も掃
き掃除など一緒に実施した。また、玄関、トイレのドアノブなど手に触れやすいものなどの拭
き掃除も実施するとともに、手洗い・手指消毒の徹底も促していった。

#)支援物資の整理#*

・支援物資は定期以外に民間の団体などからの提供もあり、物資の整理を行った。また、廊下に
あった春夏物の衣類はいったん段ボールに入れ保管庫に一時収納し、秋冬物を並べなおした。

【馬縹地区視察】

高屋地区、馬縹地区の巡回訪問が始められている。今回は馬縹地区の避難所となっている休養センターに訪問し、管理者にご挨拶とともに馬縹地区の状況についてお話を伺った。馬縹地区では豪雨の際には、避難行動要支援者リスト（*避難所管理者で震災後に独自で作成）をもとに、管理者数名で各自宅を回り避難誘導されたとのことであった。また地域全体を通し豪雨での被害はなく、生活用水も地震後同様に確保できているとのことであった。在宅避難者の情報も細かく周知されていた。現在、感冒症状などの訴えや体調不良等の報告はないとのことであった。

6. 支援活動を通しての所感と課題

重機や車が通るたびに粉塵が舞うため、支援者もゴーグルやマスク着用など対策は継続が必要。また、季節柄気温が低くなることもあり、体育館内は底冷えがする。暖房器具使用については今後避難所運営本部とも協議しながら開始時期を検討していくことと、感冒症状や、インフルエンザ、コロナなど引き続き体調管理を行っていく必要がある。

今回の支援では豪雨災害から約1か月が経過しようとしている。避難所運営人や避難所利用者、在宅避難者共に表向きは少しずつ慣れてきているように見えるが、復興・自立に向けては、迫る冬季でのアクセス問題や再び土砂災害の危険性など、心情的にも不安定な状況が続くと思われる。今後の生活に向けて最善の選択ができるよう引き続き住民に寄り添った支援を行っていく必要がある。